

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民／政治経済】

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

総合学科で、受講している生徒は〇年次から〇年次まで幅広く存在する。政治的問題に関心がありニュース等で知識を吸収している生徒も数名いるが、それを自己の今および将来の生き方と関わらせることができず、各生徒の社会参加の視点には課題がある。

2. 単元名「持続可能性の危うい〇〇市の諸課題に取り組む」（全8時間）

3. 単元目標

新学習指導要領では、公民科「政治・経済」の目標に「現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して（略）主体的に生きる公民としての資質・能力を育成する」とあり、現実の社会的課題の解決に取り組む必要がある。この単元では、〇〇市内の持続可能性が危ぶまれる諸課題と向き合い、自らに関わるものであると自覚し、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む資質の育成を目指す。

4. 本時の目標

- ・チームごとに作成した課題の解決策（政策）についてのポートフォリオを、「持続可能性を問う5観点」から互いに評価することで、自己の提案を改善する視点を得たり、持続性の高いより良い提案を考えたりすることができるようになる。（思考力・判断力・表現力）
- ・各班の発表を聞くことで、〇〇市の持続可能性が危ぶまれる諸課題を自己の将来にも関わるものだと自覚し、各班の課題が相互に関連してくるものだと実感することができる。（学びに向かう力・協働性）

5. 授業展開

解決したい課題や問い

より持続可能性の高い提案（解決策）にするためにどのような改善ができるか？各提案を5つの観点から相互に評価し、よりよい策を考える手助けをせよ。

考えるための材料

- ・各チームが作成したポートフォリオ（前時までに作成済）
 - Aチーム：「どうすれば〇〇市を全年代の楽しめる活気ある街にできるか？」（市街地衰退）
 - B・Cチーム：「子育てをしやすい環境にして少子化を食い止めるにはどうすべき？」（未婚・少子化）
 - Dチーム：「今後どうやって〇〇市の過疎化を食い止め消滅可能性都市を減らせるか？」（地方過疎・高齢化）
 - Eチーム：「今後起きる地震や津波とどう付き合っゆくか？」（予想される災害）
 - Fチーム：「AIの必要性和人間の倫理観はどうあるべきか？」（AI時代と産業・職業）
- ・持続可能性を評価する5観点（事前に説明済）
- ①【継続性】：提案の予算や手続き、担う団体機関、発展性やメリットなどを評価
 - ②【リスク】：提案を導入することの影響・デメリットを考慮できているか等の評価
 - ③【分析度】：状況分析が十分で、情報が揃い、根本的な解決策か等の評価
 - ④【魅力度】：提案の独自性や興味深さ、他者に訴えるものか等の評価
 - ⑤【実現性】：実現可能性や具体性があるか、見通し・ビジョンが明確か等の評価
- ・5観点を用いてポートフォリオを評価する際の根拠となる各データ・資料（チームごと異なる）

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

対話の方法

〈講義〉（5分）

各チームが作成した政策を、別チームとペアを組み相互に評価し合うことを確認。

〈ペアワーク〉（10分×2）

チームが作成した政策を相手チームに報告するとともに、持続可能性を問う5観点に基づいて作った「評価ふせん」（事前に作成済）を相手から受け取りコメントをもらう。また、それを受けて感じたことや思いついたアイデアをシートにまとめる。この作業を2回繰り返す。

例：「高齢者でも楽しめる街の中核的なイベント広場をデパート跡地に作る」という提案に対して、5観点を活用して問いを投げかける。例えば、観点①「その提案にはどれだけの予算が必要となる？その維持費はどの機関が払う？」、観点②「その提案を取り入れることが〇〇市街地の様子や環境をどのように変える？悪い影響や懸念は？」、観点③「イベント広場を作ることが中心街活性化の根本的解決策になる？そもそも何が問題？」、観点④「広場のデザインやイベント・集客方法等は、オリジナリティがあって魅力的か？」、観点⑤「イベント広場を作ることによってどんな街づくりを目指したいの？」

〈チーム活動〉（20分）

ペアワークで他チームからもらった「評価ふせん」およびコメントをもとに、自班の提案を改善するために今後何を調べ分析すればよいかを班員で話し合い、ワークシートにまとめる。

例：観点①「予算を考えるとときに作るお金だけじゃなく維持費も考えなきゃ」観点③「中心街に人が集まることは大事だね」観点⑤「町の中心にシンボリックなものがあった方がいいよね？」

〈振り返り〉（5分）

代表して数チームに「授業を通して政策がどのように変わったか？」を発表してもらう。

思考のプロセス

〈見方・考え方をを用いた批判的思考〉

日頃の授業で指導している政治的・経済的な見方を活用するとともに、持続可能性を問う5観点をを用いて相手の政策を批判的に評価する。

〈根拠に基づく主張〉

批判が単なる押し付けにならないよう、調査した根拠を示して建設的な評価を行う。

〈相手の評価を受けて意見の調整〉

様々な観点から自己の政策を考察する中で、自己の考えを整理し、他者の意見を踏まえて調整する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

ペアワークでの他班からの問いを付箋に記入しポर्टフォリオ（ポスター）に貼る。それを受けて、各班は自分たちの作った提案をより良いものにするために再調査・検討を加える。

例：建設費についてはこれから再調査する必要があるが、イベントの広報にSNSを活用するという方針を加えることに決めた。

育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 解決策の持続可能性を高め、私たちの未来社会をより良くするためには、「継続性」「リスク」「分析度」「魅力度」「実現性」といった見方から解決策を見つめ直すことが有効であることを理解する。・ 〇〇市の現状および課題の背景等を、他班のポर्टフォリオから多面的に読み取る。
②思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none">・ 前時の調べ学習で調査した〇〇市に関する基礎的情報を踏まえ、ポर्टフォリオに反映させている。・ 将来10年20年にわたって持続できる解決策を、班員と連携して考えることができる。・ 「継続性」「リスク」「分析度」「魅力度」「実現性」などの観点を踏まえた判断がなされている。
③主体性・学びに向かう力 協働性など	<ul style="list-style-type: none">・ 次時の学習課題に向けて調査項目や分析視点を整理し、より良い解決策を導こうとしている。・ 〇〇市の持続困難な諸課題が相互に関連し私たちの将来の生き方・生活に関わることを自覚し、解決のための行動ができる。

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	<p>〇〇市を再び活気のある街へ！政策</p> <p>①駐車を増やして料金も安くする</p> <p>②ショッピング施設を建設する&施設の情報SNSで発信</p> <p>③若い人が働きやすい街中に企業のオフィスを入れる</p>	<p>相互評価会後の政策案</p> <p>①駐車場&公共交通機関の値下げを（駐車場政策で渋滞が悪化する恐れ。車を利用できない人のためにも）</p> <p>②中型商業施設を複数造り、大手広告で宣伝する（大型一か所のみでは全体的な繁盛が期待できない）</p> <p>③同左</p>
Bさん	<p>〇〇市特有の条例で未婚率&少子化問題解決！政策</p> <p>①子育てと仕事の両立をしやすいため保育園を増加</p> <p>②〇〇市内の保育園に勤務する保育士の給料を上げる</p> <p>③海外にある事実婚を〇〇市も取り組む</p>	<p>相互評価会後の政策案</p> <p>①地域の施設を借りて、保育士を派遣する（使っていない施設を利用すれば色々メリットがあるのでは）</p> <p>②保育士の給料を上げる&公務員として身分保障（金銭面での課題が大きいと感じたため）</p> <p>③同左</p>
Cさん	<p>未婚率が多い原因を特定し、改善を図る政策</p> <p>①働く時間を減らし、家族と過ごす週末を作る</p> <p>②相席居酒屋のような出会いの場を作る</p> <p>③結婚式などの資金を支援する</p>	<p>相互評価会後の政策案</p> <p>①仕事の効率化を図るため、人工知能を活用（単に週休日を増やすと給料が減るため、人間とAIの役割分担を考えて仕事を任せ、休めるときに休む）</p> <p>②趣味を通じたイベントの実施（相席はハードルが高く、色々な心配がある。気の合う人と自然に出会い、一緒に過ごせる時間を作るべき）</p> <p>③同左</p>

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	<p>「より良い、より持続性の高い案を作る」という指示を繰り返し伝えたことが、課題意識の向上と解決への動機づけになったと思われる。そもそも、解決したい課題が班によって異なるため、一律には結論付けられないが、自己の問題として取り組んだ班と、最後まで他人事として取り組んだ班に分かれたのではないかと感じている。</p>
考えるための材料	<p>「持続性を問い直す5観点」は、多数の班である程度有効に機能していたと思われるが、使い方を理解できず混乱する生徒も若干いた。特に【分析度】は、どのようにも解釈できる観点なので、もう少し限定した観点に替えた方が良かったと感じている。資料活用の仕方も徹底して指導できなかった。</p>
対話と思考	<p>自らの作った政策を自分で批判するのは難しいので、他の班員と連携して相互評価をしたことは意味があったと思う。ただ、授業中に意見を出し合い対話する中で、斬新なアイデアを生み出すという所までは至らなかった。評価会が、お互いが調べ考えた内容を報告し合う活動になっていたのではないかと反省している。</p>
学習の成果	<p>6班のうち4班（A・B・C・E班）で政策の改善が見られた一方、全く改善されなかった班（F班）もあった。また、そもそものコンセプトが「市が取り組める政策を考えよう」だったため、この学習を通して生徒一人ひとりが何をすべきか、という当事者性を育てることができなかったと感じている。</p>

